平成30年９月12日

各　位

会　社　名　株式会社トランザス
代表者名　代表取締役社長　藤吉　英彦
（コード番号：6696　東証マザーズ）
問合せ先　取締役経営管理部長　稲田　淳
（TEL.045-650-7000）

平成31年１月期第２四半期業績予想と実績との差異及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

平成30年３月14日に公表いたしました平成31年１月期第２四半期累計期間（平成30年２月１日～平成30年７月31日）の連結業績予想と、本日公表の同実績に差異が生じましたので、下記のとおりお知らせいたします。

また、最近の業績動向等を踏まえ、平成30年３月14日に公表いたしました平成31年１月期通期の連結業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

１．平成31年１月期第２四半期累計期間連結業績予想と実績との差異

（１）連結業績予想と実績との差異（平成30年２月１日～平成30年７月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する四半期純利益	１株当たり四半期純利益
前回発表予想（A） （平成30年３月14日発表）	百万円 431	百万円 △33	百万円 △34	百万円 △35	円　銭 △11.49
今回実績（B）	251	△101	△100	△101	△32.34
増減額（B－A）	△180	△68	△66	△65	
増減率（%）	△41.7	―	―	―	
（参考）前期第２四半期実績 （平成30年１月期第２四半期）	百万円 593	百万円 122	百万円 118	百万円 80	円　銭 38.10

（２）差異の原因

当第２四半期連結累計期間において、IoT ソリューションサービスの映像配信分野及び販売支援分野において、販売パートナーであるVAR（付加価値再販パートナー）の最終顧客への営業状況により販売を予定していた案件が成約に至らなかったことや納品時期に遅れが生じたことから、受注・売上高ともに前回予想時の想定を下回って推移いたしました。また、同サービスの作業支援分野の主力製品であるウェアラブルデバイス「Cygnus（シグナス）」について、問い合わせは多いも

のの VAR や顧客ごとに要件が異なり個別対応が必要であることから、受注までに当初予想よりも時間がかかっていることから、受注・売上高ともに前回予想時の想定を下回って推移いたしました。

これらのことから、IoT ソリューションサービスの売上高は対計画比 60.3%減の 122 百万円（前回予想比 185 百万円減）となり、サービス展開分野別内訳としては、映像配信分野が対計画比 43.4%減の 99 百万円、販売支援分野が対計画比 62.8%減の 20 百万円及び作業支援分野が対計画比 97.3%減の２百万円となりました。

一方、IT 業務支援サービスの売上高は、対計画比 4.7%増の 128 百万円（前回予想比５百万円増）となりました。

以上の結果、当第２四半期累計期間における売上高は対計画比 41.7%減の 251 百万円（前回予想比 180 百万円減）となりました。

両サービスにおいて外注費の削減に取り組む等のコスト削減を行いましたが、IoT ソリューションサービスの売上高が前回予想を下回った影響により、売上総利益が前回予想よりも 62 百万円減少いたしました。そのため、営業損失は前回予想よりも 68 百万円拡大し 101 百万円、経常損失は前回予想よりも 66 百万円拡大し 100 百万円、親会社株主に帰属する四半期純損失は前回予想よりも 68 百万円拡大し 101 百万円となりました。

２．平成 31 年１月期通期連結業績予想の修正

（１）連結業績予想の修正（平成 30 年２月１日～平成 31 年１月 31 日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	１株当たり当期純利益
前回発表予想（A） （平成 30 年３月 14 日発表）	百万円 1,500	百万円 271	百万円 269	百万円 178	円　銭 56.85
今回修正予想（B）	1,004	5	2	0	0.16
増減額（B－A）	△496	△266	△267	△177	
増減率（%）	△33.1	△98.1	△99.0	△99.7	
（参考）前期実績 （平成 30 年１月期）	百万円 1,258	百万円 251	百万円 245	百万円 152	円　銭 58.37

（２）修正の理由

IoT ソリューションサービスでは、作業支援分野において、宿泊施設の IoT 化を促進するための IoT コントローラー「AIrux（エーアイラックス）」やホスピタリティロボットの提供を当連結会計年度より開始する予定です。これらは人的作業の一部を代替することができるため、労働力不足が深刻な宿泊業界を中心に引き合いがあり、「AIrux」やホスピタリティロボットと連携させて利用することができる次世代 VOD 端末とともに、当初予想よりも受注・売上高は上回って推移すると見込んでおります。

しかしながら、次世代 VOD 端末の提供開始を発表したことによる従来の VOD 端末からの移行タイミングが当初予想以上に早まったことで、従来の VOD 端末の販売量が当初予想以上に減少する見込みです。そのため、売切り型の端末販売を収益とする従来の VOD 端末から、月額・課金型

を収益の柱とする低価格な次世代 VOD 端末への移行により、販売単価の減少も想定され、映像配信分野では受注・売上高ともに前回予想を下回る見込みです。

また、作業支援分野で、当連結会計年度に販売を予定しておりました案件の受注が遅れ、翌連結会計年度まで開発が継続する見込みとなったこと及びウェアラブルデバイス「Cygnus」で見込んでおりました海外の大型案件について、テスト導入による効果測定や VAR の保有するソフトウェアの修正が長期化しており、受注・売上高の時期に不確実性が伴うため、それらの案件の計上時期を翌連結会計年度に見直しました。これらのことから、「AIrux」等の新製品の提供はあるものの、作業支援分野では受注・売上高ともに前回予想を下回る見込みです。

以上のことから、IoT ソリューションサービスの売上高を対計画比 33.3%減の 782 百万円（前回予想比 390 百万円減）と修正いたします。サービス展開分野別内訳としては、映像配信分野が対計画比 10.1%減の 542 百万円、販売支援分野が対予想比 32.8%増の 104 百万円及び作業支援分野が対計画比 72.5%減の 135 百万円と見込んでおります。

IT 業務支援サービスにおいては、競合が多い一方で IoT ソリューションサービスに営業活動を注力したため、前回予想時に予定していたシステム受託開発案件についての受注確度が低下したことから、その売上高を対計画比 32.3%減の 221 百万円（前回予想比 105 百万円減）と修正いたします。

以上の結果、当期の売上高予想数値は対計画比 33.1%減の 1,004 百万円（前回予想比 496 百万円減）となる見込みです。

売上高が前回予想よりも 496 百万円減少することで、売上総利益が前回予想よりも 264 百万円減少する見込みです。そのため、営業利益は前回予想よりも 266 百万円減少し 5 百万円、経常利益は前回予想よりも 267 百万円減少し 2 百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は、法人税等の見直しも行った結果、前回予想よりも 177 百万円減少し 0 百万円となる見込みです。

（注）上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報により作成したものであり、
実際の業績は今後様々な要因によって異なる可能性があります。

以上